

事後評価報告書

総合理工学研究機構運営委員会

平成26年6月16日(月)

研究課題	生物利用型水質浄化システムの構築と応用に関する研究	
研究期間	平成23年度～25年度	
	評価項目	平均点
	1 研究課題選定の妥当性	4.0
	2 目標の達成度	3.4
	3 研究成果の活用及び実用化の可能性	3.4
	4 今後の発展性	3.6
	5 総合評点	3.6
<p>先行研究で残された幾つかの課題について、実験的かつ精力的に取り組んだ課題である。</p> <p>特に本後継研究では、環境負荷の低い水質浄化法としてセキショウモ等の水生植物と二枚貝（タテボシガイ）の共存に基づく方法の有効性を提示できたことは評価できる。また、水生植物の安定供給法を見出したことや緑肥としての利用に道を拓いたことも特記できる。</p> <p>さらに、セキショウモの亜鉛濃縮能については、新たな発見として評価でき、緑肥としての応用と共に、水圏生態系の重金属除去を目的とした利用にも可能性が出てきた。</p> <p>しかし、実際の水圏は様々な生物と環境要因が絡み合った複雑な生態系から成立しており、本研究のような生態系の一部を切り出し作り出したような実験生態系では、成果をどこでどのように活用するのかがなかなか見えてこない。また、効果が見られた水生植物と二枚貝の共存による水質浄化も、鳥類や魚類の捕食に対する対策手法がまだ完全でなく、検討の余地が残されている。</p> <p>このように課題は幾つか残されたものの、本研究によって得られた水圏の環境負荷の低い水質浄化法の一定の知見や成果は、今後の安定系の確立に向けた研究や応用に、影響力を持っていくものと思われる。</p>		